

社会福祉士国家試験 19 科目徹底分析と合格への道

東京アカデミー東京校 社会福祉士国家試験担当

社会福祉士国家試験は、社会福祉の専門家を目指す上で避けて通れない重要な関門です。試験は全 19 科目で構成され、幅広い知識と理解が求められます。

各科目の難易度は、その内容の専門性や出題範囲の広さによって異なります。一般的に、共通科目は社会福祉の基礎となる知識を問うものが多く、難易度は中程度とされています。一方、専門科目は各分野に特化したより深い知識が問われるため、難易度はやや高めとなる傾向があります。しかし、近年では共通科目においても専門的な知識や思考力を問う問題が増加しており、油断は禁物です。合格のためには、各科目の特性を理解し、効率的かつ効果的な対策を講じることが不可欠となります。

社会福祉士国家試験の全 19 科目について、その概要、難易度分析、そして具体的な対策について、解説していきます。



社会福祉士試験科目

共通科目

- ①医学概論
- ②心理学と心理的支援
- ③社会学と社会システム
- ④社会福祉士の原理と政策
- ⑤社会保障
- ⑥権利擁護を支える法制度
- ⑦地域福祉と包括的支援体制
- ⑧障害者福祉
- ⑨刑事司法と福祉
- ⑩ソーシャルワークの基盤と専門職
- ⑪ソーシャルワークの理論と方法
- ⑫社会福祉調査の基礎

専門科目

- ⑬高齢者福祉
- ⑭児童・家庭福祉
- ⑮貧困に対する支援
- ⑯保健医療と福祉
- ⑰ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)
- ⑱ソーシャルワークの理論と方法(専門)
- ⑲福祉サービスの組織と経営



受験者数・合格状況の推移

社会福祉士国家試験

	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回	第37回
受験者数	39,629	35,287	34,563	36,974	34,539	27,616
合格者数	11,612	10,333	10,942	16,338	20,050	15,561
合格率	29.3%	29.3%	31.1%	44.2%	58.1%	56.3%

～ 第37回合格者の声 ～

亀井照子さん



大学の通信教育で勉強している時に、東京アカデミーの講師がスクーリングに来て受講する機会があり、分かりやすく話してくれたので、是非、卒業後にも受講したいと思い入会しました。講師の先生が試験の傾向と対策を調べて、出題傾向を教えてくださいました。また、分かりにくい内容は例題を混じえて話してくれたり、資料等を用意して目で見て分かるようにしてもらい助かりました。重要なところは、例題問題を出してイメージしやすくしてくれて丁寧に解説してくれました。今回はオンラインでの受講にしたので、何回も視聴ができて、理解できない内容は何度も振り返る事ができました。

今年の社会福祉士の試験の特徴は、教科ごとの問題の出題でなく、他の教科でも関連づけた問題が多く出題されました。講師の先生がポイントとして教えてくれるので、聞き逃さないで何回も確認してみてください。これがオンライン受講の強みです。



【各科目の概要および難易度Ⅰ～午前問題「共通科目」】

1. 医学概論（難易度：やや高め）

医学概論は、社会福祉士が多様なニーズを持つ人々を支援する上で不可欠な、医学的な視点や基礎知識を問う科目です。人間の身体の構造と機能、主要な疾病、障害の概念、リハビリテーション、公衆衛生、感染症予防など、幅広い範囲の知識が求められます。難易度は決して低くなく、出題範囲の広さ、専門用語の多さ、事例問題への応用力が理由として挙げられます。

対策としては、頻出キーワード・疾患の把握、基礎医学用語の習得、疾患・障害の理解、事例問題対策、図やイラストの活用、他科目との連携、模擬試験の活用が重要です。

2. 心理学と心理的支援（難易度：やや高め）

「心理学理論と心理的支援」は、社会福祉士が利用者の抱える問題の背景にある心理的な要因を理解し、適切な支援を提供するために、心理学の主要な理論と、それに基づいた具体的な心理的支援の方法を問う科目です。難易度は中程度からやや高めであり、出題範囲の広さと深さ、抽象的な概念の理解、多様な支援技術の習得、事例問題への応用力が理由です。

対策としては、主要な心理学理論の体系的な理解、心理支援技術の習得、過去問の徹底的な分析と活用、事例問題への取り組み、基本用語の正確な理解、他科目との関連性を意識した学習、模擬試験の活用と復習が挙げられます。

3. 社会学と社会システム（難易度：中程度）

「社会学と社会システム」は、社会全体の構造や機能、そしてそれらが人々の生活に与える影響を理解するための基礎となる科目です。社会学の基本的な概念や理論、社会変動、現代社会の課題、社会福祉の制度や政策が組み込まれる社会システムに関する知識が問われます。難易度は中程度であり、基礎的な社会学理論の理解が中心である一方、現代社会の動向や社会福祉制度との関連性も問われるためです。

対策としては、主要な社会学理論・概念の整理と理解、現代社会の課題に関する知識の習得、社会福祉制度・政策との関連付け、過去問の徹底的な分析と活用、事例問題への取り組み、基本用語の正確な理解、図や表の活用が挙げられます。

4. 社会福祉の原理と政策（難易度：中程度）

「社会福祉士の原理と政策」は、社会福祉士として活動する上での基本的な理念や価値観、倫理、そして社会福祉に関する制度や政策の枠組みを理解するための科目です。社会福祉の歴史的変遷、社会福祉の基本原則、社会福祉士の倫理綱領、各分野の福祉に関する法律や制度、社会保障制度の概要などが問われます。難易度は中程度であり、基本的な理念・原則の理解が重要である一方、制度・政策に関する知識の広範性も理由として挙げられます。

対策としては、社会福祉の理念・原則の徹底理解、主要な法律・制度の体系的な学習、最新の法改正・制度改正情報の収集、過去問の徹底的な分析と活用、事例問題における理念の適用練習、関連科目の知識との連携、模擬試験の活用と復習が挙げられます。

5. 社会保障（難易度：やや高め）

「社会保障」は、国民が安心して生活を送る上で不可欠な、疾病、貧困、失業、高齢化、障害といった様々なリスクに対して、国や社会が提供する公的な仕組みを理解するための科目です。社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生といった広範な領域の制度、法律、そしてその財源、運営、課題などが問われます。難易度はやや高めであり、制度の複雑さと多岐にわたる範囲、頻繁な法改正への対応、横断的な知識の必要性などが理由です。

対策としては、主要な法律・制度の体系的な理解、法改正情報の定期的な収集と理解、制度間の関連性と体系的な理解、最新の社会問題との関連付け、過去問の徹底的な分析と活用、事例問題への練習、関連科目の知識との連携が挙げられます。

6. 権利擁護を支える法制度（難易度：やや高め）

「権利擁護を支える法制度」は、利用者の尊厳を保持し、人としての権利を擁護するために必要となる、憲法、民法、成年後見制度、社会福祉関係法規など、幅広い法律や制度に関する知識を問う科目です。難易度は中程度からやや高めであり、法律知識の正確性、広範な法律・制度のカバー、事例問題における法的思考力が理由です。

対策としては、主要な法律・制度の条文や内容の理解、制度の目的や背景の理解、事例問題への積極的な取り組み、関連図や表を活用した整理、最新の法改正情報の収集、基本用語の正確な理解、他科目との関連性を意識した学習が挙げられます。

7. 地域福祉と包括的支援体制（難易度：中程度）

「地域福祉と包括的支援体制」は、地域社会全体を視野に入れ、そこに住む人々が安心して生活できる地域づくりを推進するために必要となる知識と視点を問う科目です。地域福祉の理念と原則、地域福祉計画、社会資源の開発と連携、ボランティア活動、住民参加、多職種連携、包括的支援体制などが問われます。難易度は中程度であり、理念・原則と具体的な取り組みの理解、制度・計画に関する知識、多職種連携とネットワークの重要性が理由です。

対策としては、地域福祉の理念・原則の理解、主要な制度・計画の枠組みの把握、多職種連携と社会資源に関する知識の習得、過去問の徹底的な分析と活用、事例問題における地域視点の練習、最新の地域福祉に関する情報の収集、関連科目の知識との連携が挙げられます。

8. 障害者福祉（難易度：やや高め）

「障害者福祉」は、様々な障害のある人々が地域社会において自立した生活を送り、社会参加を実現するための支援に関する専門知識を問う科目です。障害の概念と分類、障害者基本法、障害者総合支援法をはじめとする関連法規、障害福祉サービスの種類と内容などが問われます。難易度は中程度からやや高めであり、障害の多様性と個別ニーズの理解、複雑な法律・制度の理解、多岐にわたるサービス内容の把握が理由です。

対策としては、主要な法律・制度の条文と内容の正確な理解、多様な障害の特性と支援ニーズの学習、障害福祉サービスの内容と利用プロセスの把握、相談支援の役割とプロセス、過去問の徹底的な分析と活用、事例問題への練習、最新の制度改正や動向の把握、関連科目の知識との連携が挙げられます。

9. 刑事司法と福祉（難易度：難）

「刑事司法と福祉」は、犯罪や非行に関わった人々に対する支援において、刑事司法の各段階と福祉の専門性がどのように連携し、包括的な支援を提供していくかを学ぶ科目です。刑事司法制度の概要、矯正施設における福祉的支援、更生保護、被害者支援などが問われます。難易度はやや難であり、専門用語の多さと制度の複雑さ、他科目との関連性の理解、事例問題における連携の視点が理由です。

対策としては、刑事司法制度の基本を理解する、更生保護制度の仕組みを理解する、犯罪・非行の原因論と福祉的視点を学ぶ、被害者支援の重要性と関連法規を学ぶ、少年法と福祉の関わりを理解する、司法ソーシャルワークの役割を理解する、過去問の徹底的な分析と活用、関連法規や最新動向、他の専門科目との連携が挙げられます。

10. ソーシャルワークの基盤と専門職（難易度：中程度）

「ソーシャルワークの基盤と専門職」は、社会福祉士が専門職として活動するための基本的な理念、価値、倫理、歴史、役割、そして関連する理論を理解するための科目です。ソーシャルワークの定義と目的、価値と倫理原則、ソーシャルワークの歴史的変遷、ソーシャルワークの理論、ソーシャルワークの機能と役割などが問われます。難易度は中程度であり、基本的な概念と原則の理解が中心である一方、歴史的変遷と国際的動向の把握も理由として挙げられます。

対策としては、ソーシャルワークの基本理念・価値・倫理の徹底理解、ソーシャルワークの歴史的変遷の把握、主要なソーシャルワーク理論の理解、ソーシャルワークの機能と役割の理解、過去問の徹底的な分析と活用、倫理的ジレンマに関する練習、関連科目の学習との連携が挙げられます。

11. ソーシャルワークの理論と方法（難易度：やや高め）

「ソーシャルワークの理論と方法」は、社会福祉士が具体的な支援を展開するために必要となる主要なソーシャルワーク理論と、それに基づいた援助技術を理解するための科目です。個人援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）、ソーシャルワークにおけるアセスメント、計画、介入、評価のプロセスなどが問われます。難易度はやや高めであり、多様な理論と技術の理解、援助プロセス全体の理解、事例問題への応用力が理由です。

対策としては、主要な援助技術の理論と展開方法の体系的な理解、援助プロセス全体の段階的な理解、事例問題への積極的な取り組み、基本用語の正確な理解、多職種連携の実際を学ぶ、倫理的課題への対応力を養う、関連科目の知識との連携が挙げられます。

12. 社会福祉調査の基礎（難易度：中程度）

「社会福祉調査の基礎」は、利用者のニーズや地域社会の課題を客観的に把握し、効果的な支援計画を立てるために必要となる社会調査に関する基本的な知識と方法を理解するための科目です。社会調査の目的と種類、調査の倫理、量的調査と質的調査の基礎、標本抽出、質問紙調査、面接調査、観察調査、文献調査、データの分析と解釈などが問われます。難易度は中程度であり、基本的な概念と用語の理解、調査方法の知識が理由です。

対策としては、社会調査の目的と種類を理解する、調査の倫理原則を学ぶ、量的調査と質的調査の特徴と手法を比較する、主要な調査方法の知識を習得する、データの分析と解釈の基礎を学ぶ、過去問の徹底的な分析と活用、事例問題を通して調査方法の選択を練習する、他の専門科目との関連性を意識するが挙げられます。

【各科目の概要および難易度Ⅱ～午後問題「専門科目」】

13. 高齢者福祉（難易度：やや高め）

「高齢者福祉」は、高齢者が地域社会において尊厳を保ち、自立した生活を送るための支援に関する専門知識を問う科目です。高齢者の心身の特徴と加齢に伴う変化、高齢者福祉に関する法律と制度、多様な高齢者福祉サービスの種類と内容、地域包括ケアシステム、認知症ケア、終末期ケアなどが問われます。難易度はやや高めであり、高齢者の多様なニーズの理解、複雑な法律・制度の理解、多岐にわたるサービス内容の把握が理由です。

対策としては、主要な法律・制度の条文と内容の正確な理解、高齢者の心身の特徴と加齢に伴う変化の学習、多様な高齢者福祉サービスの内容と利用プロセスの把握、地域包括ケアシステムの構成要素と連携の理解、過去問の徹底的な分析と活用、事例問題への練習、最新の制度改正や動向の把握、関連科目の知識との連携が挙げられます。

14. 児童・家庭福祉（難易度：やや高め）

「児童・家庭福祉」は、子どもたちが健やかに成長し、家庭が安定した機能を果たすための支援に関する専門知識を問う科目です。子どもの発達段階と特徴、児童福祉に関する法律と制度、多様な児童福祉サービスの種類と内容、家庭支援、虐待防止、子育て支援などが問われます。難易度はやや高めであり、子どもの発達段階と多様なニーズの理解、複雑な法律・制度の理解、多岐にわたるサービス内容の把握が理由です。

対策としては、主要な法律・制度の条文と内容の正確な理解、子どもの発達段階と特徴の学習、多様な児童福祉サービスの内容と利用プロセスの把握、家庭支援に関する知識の習得、過去問の徹底的な分析と活用、事例問題への練習、最新の制度改正や動向の把握、関連科目の知識との連携が挙げられます。

15. 貧困に対する支援（難易度：やや高め）

「貧困に対する支援」は、現代社会における貧困の多様な様相を理解し、貧困状態にある人々やそのリスクを抱える人々に対して、社会福祉士がどのように支援を展開していくかを学ぶ科目です。貧困の定義と概念、貧困の原因と構造、生活保護制度、低所得者支援策、子どもの貧困対策などが問われます。難易度はやや高めであり、貧困の多角的な理解、複雑な制度と政策の理解、最新の貧困に関する動向の把握が理由です。

対策としては、貧困の定義、概念、構造を理解する、主要な法律・制度の内容を正確に理解する、最新の貧困に関する統計と対策を把握する、事例問題への練習、関連科目の知識と連携させる、貧困問題に関する最新の課題に関心を持つが挙げられます。

16. 保健医療と福祉（難易度：中程度）

「保健医療と福祉」は、人々の健康な生活を支援するために不可欠な保健医療分野と福祉分野の連携の重要性を理解し、それぞれの制度や専門職の役割、連携の実際について学ぶ科目です。日本の保健医療制度の概要、疾病構造の変化と生活習慣病対策、リハビリテーション、精神保健医療、感染症対策、終末期医療・ケア、地域包括ケアシステムにおける医療と介護の連携などが問われます。難易度は中程度であり、両分野の基礎知識が必要である一方、連携の視点が重要となるためです。

対策としては、保健医療制度の基本を理解する、福祉関連制度との連携を意識する、地域包括ケアシステムにおける連携を理解する、医療ソーシャルワーカーの役割を把握する、過去問の徹底的な分析と活用、事例問題への練習、最新の医療・福祉の動向を把握する、関連科目の知識との連携が挙げられます。

17. ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）（難易度：やや難）

「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」は、共通科目である「ソーシャルワークの基盤と専門職」をより深く掘り下げ、社会福祉士としての専門性を高め、実践へと応用するための知識を問う科目です。ソーシャルワークの価値と倫理の深化、ソーシャルワーク理論の応用、専門職としての自己認識と成長、スーパービジョンなどが問われます。難易度はやや難であり、倫理的課題への深い理解と専門的な判断、ソーシャルワーク理論の応用、専門職としての自己認識と成長が理由です。

対策としては、ソーシャルワークの価値と倫理の深化、ソーシャルワーク理論の応用力を高める、スーパービジョンとコンサルテーションの理解、多職種連携における専門性の発揮、過去問の徹底的な分析と活用、専門職としての自己成長を意識する、関連科目の知識との統合が挙げられます。

18. ソーシャルワークの理論と方法（専門）（難易度：難）

「ソーシャルワークの理論と方法（専門）」は、共通科目である「ソーシャルワークの理論と方法」をさらに発展させ、より専門的かつ高度な知識と技術を問う科目です。多様なソーシャルワーク理論の深化と統合、高度なアセスメントと介入技術、専門分野におけるソーシャルワーク実践などが問われます。難易度は難であり、高度な理論の理解と統合、複雑なアセスメントと介入技術、専門分野における実践知識が理由です。

対策としては、多様なソーシャルワーク理論の深化と統合、高度なアセスメントと介入技術の習得、専門分野におけるソーシャルワーク実践の学習、多職種連携・協働の深化、研究的視点の涵養、高度な倫理的判断力の養成、スーパービジョン・コンサルテーションの積極的な活用、関連科目の知識との統合が挙げられます。

19. 福祉サービスの組織と経営（難易度：中程度）

「福祉サービスの組織と経営」は、利用者に対して質の高い福祉サービスを持続的に提供するために必要となる、福祉サービスの組織運営、経営管理、人材育成、財務管理、評価、情報管理、リスクマネジメントなどに関する知識を問う科目です。社会福祉法人の制度、NPO 法人、株式会社等の運営、リーダーシップ論、チームワーク、職員研修、財務会計の基礎などが問われます。難易度は中程度であり、幅広い知識領域、制度や法律の理解が理由です。

対策としては、主要な組織形態と運営原則を理解する、リーダーシップとチームマネジメントの基本を学ぶ、人事・労務管理の基礎を学ぶ、財務会計の基礎を理解する、サービス評価と質の向上に関する知識を習得する、情報管理とリスクマネジメントの重要性を理解する、過去問の徹底的な分析と活用、事例問題への練習が挙げられます。

合格への羅針盤：効率的かつ効果的な対策（600 字）

社会福祉士国家試験合格のためには、全 19 科目をバランス良く学習することが重要です。まずは過去問を徹底的に分析し、自身の得意科目と苦手科目を把握しましょう。苦手科目は基礎から丁寧に理解を深め、得意科目は得点源となるよう確実に知識を定着させることが重要です。

学習方法としては、インプットとアウトプットを効果的に組み合わせることが推奨されます。参考書や講義動画などで知識を習得したら、すぐに過去問や問題集を解き、理解度を確認しましょう。間違えた問題は必ず復習し、弱点を克服していくことが重要です。[この点で、東京アカデミー東京校のオンライン講座 6 月生の受講がお勧めです。](#)

また、法改正や最新の社会情勢に関する情報も常に意識しておきましょう。厚生労働省のウェブサイトや関連ニュースなどを定期的に確認し、知識のアップデートを怠らないようにしてください。[この点、東京アカデミーでは、最新の情報を受講生の方にお伝えしておりますので、東京アカデミー東京校のオンライン講座 6 月生の受講をお勧めいたします。](#)

さらに、模擬試験を積極的に活用し、時間配分や試験の雰囲気に慣れておくことも重要です。模擬試験の結果を分析し、自身の課題を明確にし、残りの学習計画に活かしましょう。[東京アカデミーでは、2025 年 9 月 21 日に模擬試験を実施します（自宅受験のみ）。東京アカデミー東京校のオンライン講座受講生の方には自動的に模擬試験自宅受験セットが送付されます。](#)

最後に、体調管理も万全に行い、試験当日を最高のコンディションで迎えられるように心がけてください。計画的な学習と自分を信じる気持ちがあれば、必ず合格を掴み取ることができます。頑張ってください！東京アカデミーでは社会福祉士国家試験受験生を応援しています。